

昭和二十八年五月十五日第三種郵便物認可
(毎月一回一日発行)

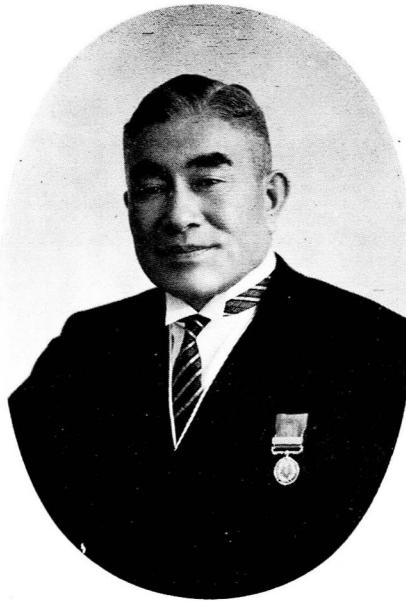
牧草園藝



雪印種苗株式会社

松原社長

藍綬褒章受賞の光栄に浴す



◇ 我が國酪農の功労者として去る六月九日当社松原太郎社長はキク夫人と共に都道府県会館にて藍綬褒章を受賞し、引続き農林大臣始め関係の方々と共に昼食を終え

与えられた仕事をやつただけだ。『北海道・東北の農業は酪農でなければ駄目だ』といふのが私の信念だが、我が國の酪農が今日の発展を見るに至ったのは、酪農民の方々が幾多の先輩、或いは私共の意見をよく見て忠実にやってくれた結果である、これにむづくいる為にも私は今後も酪農の振興発展に微

力を捧げたい』とその決意を語るのであつた。

◇ 松原社長は明治二十九年徳島県から札幌郡広島村に入植した開拓者松原福蔵氏の長男

た後、宮中に参内して天皇陛下に賜謁を許され賢くも陛下より「多年の功勞を讃えその勞をねぎらうと共に今後益々健康に留意されて夫々の道に精進されることを望む」という旨の有難い御言葉を賜わるの光榮に省みつつその喜びをかみしめながら「褒章を受ける等とは思つてもいなかつた、私に

向けて国内だけで食糧をまかなう態勢が必要だ、酪農の将来もこれにつながる、わが雪印種苗でも毎年かなりの飼料作物、牧草種子の生産を行なうと共に年間千八百ヘクタールを提唱して全道をくまなく歩いた。

昭和十六年おされてて広島村村長となり、戦後追放指令を受けるまで村長として村の酪農振興は勿論、林業行政、土地改良事業、道路の整備、交通運輸の発展、農村電化等農村の近代化に大きく貢献した、それより先に村の産業組合長となり、統いて農業会長、農業協同組合長等全村民の期待と信頼を一身に担つて村の発展充実に努め現在も広島村農業協同組合長として活躍しているのであります。

戦後は雪印乳業の重役陣に加わり今日まで約二十年主として酪農担当重役として終始酪農の振興に努め、雪印乳業が戦後府県に進出するに及んで昭和二十七年岩手県、同三十一年には青森県に赴いて現地をくまなく回り両県は勿論東北地方の酪農の振興を図ると共に今日の雪印乳業の地盤を築き上げたのであります。その間、昭和三十四年以降わが雪印種苗の社長となり、酪農業確立のための最大要因である草作りの充実に努め、現在は常勤社長として我が国を図ることを脳裡に画いていた。二十八才やし父を接けて當農に励んだが、心の底には常に酪農の振興によって北方農業の確立を図ることを胸にいた。二十才の時(大正十二年)村に酪農組合をつくってベターの製造をはじめて地方酪農の振興に努めたのであるが、当時農民の団体が製酪事業に着手したのはおそらく日本の嚆矢である。

松原社長は五十余年に亘って酪農の振興に努めたのであるが、当時農民の団体が製酪事業に着手したのはおそらく日本の嚆矢である。

昭和八年原料乳統制で工場を酪連(雪印

雪印種苗株式会社取締役社長(常勤)

雪印乳業株式会社取締役

北海道農材工業株式会社取締役
北紡株式会社取締役

学校法人酪農学園監事

北海道報徳社理事
広島村農業協同組合長

◇ 家庭は今も札幌郡広島村にあってキク夫人をはじめ長男御一家と共に健康で明るい文化生活を楽しめ、庭樹や花をこよなく愛し、家庭内では誠によきおじいちやまであります。